

1

主張を読み取る

考え方

1 ①段落で示された数字は、「年間一七〇〇万トン、一人当たり直すと約一五キロ」です。これは単純な数字ですが、これを「ご飯茶わん」で「約六十食分の食料」と説明し直すと、目の前にたくさんのお茶わんがならんだ光景がうかぶのではないのでしょうか。数字を身近なものに例えることで、実感しやすくしているのですね。アは「数値目標」を設定しているという点がまちがいです。また、「動かしがたい事実」ならば、最初の数字のみでも構わないので、イも不適切ですね。「張本人は自分たちである」というエの内容は問題文に合いますが、「身近な数字」を出す意図とは結びつきません。

2 筆者は①②段落で、「食品ロス」の数値におどろいてほしい、といった話をしています。これは自分たちがすべている食品の量の「可視化」ということです。そこで、「可視化」の意図を考えると、「取り組み」の「定着」であるところかめまします。もちろん、「食品ロス」を減らす取り組みのことですね。これらをまとめます。

- 答え
- 1 ウ
- 2 どれだけ食品をすべているか／食品ロスの減少

2

慣用句

考え方

1 慣用句とは、二つ以上の言葉が組み合わさって特別な意味を表す言葉です。一つ一つの言葉の意味だけでなく、文脈をふまえて考えましょう。

2 体の一部を使った慣用句は多いので、意味とともにしつかり覚えておきましょう。①は「考えこむ」から「頭」、③は「見分ける」から「目」、⑤は「聞く」から「耳」が連想できます。

3 「らちが明かない」は、何かの事情で物事がはかどらない、問題がかたづけられないという意味です。⑥「花を持たせる」は、相手を喜ばせるために、勝利や手がらなどをゆずるという意味です。

4 ④「油を売る」は、むだ話をして仕事をなまけること、⑤「気が置けない」は、気を使わず打ち解けてつきあえることなので、この文脈に合いません。それぞれ「血のにじむ（ような努力）」、「気が遠くなる（ような長い年月）」などがあてはまります。

- 答え
- 1 ウ 2 ア 3 イ 4 才 5 エ
- 2 ①頭 ②足 ③目 ④顔 ⑤耳
- 3 ①相づち ②板 ③水 ④羽 ⑤らち ⑥花
- 4 ①むね ②いき
- 使い方をまちがえているもの ④・⑤

Z会 × すたペンドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくはこちら!

Z会の本



かわいい小学生になろう

3

品詞

考え方

1 「信じる」は動詞、ほかは形容動詞です。2 「あれ」は名詞、ほかは形容詞です。3 「正しい」は形容詞、ほかは名詞です。「願う」は、動詞「願う」の連用形「願う(ます)」から名詞になったもので、「い」で終わっていますが、形容詞ではありません。活用がないこと、「願いがかなう。」のように主語になることから、名詞だと判断できます。4 「明らかだ」は形容動詞、ほかは動詞です。

3 1 「見事だ」は形容動詞、2 「強い」は形容詞です。5 「むかえる」は動詞ですが、「むかえ」は名詞であることに注意しましょう。「むかえが来た。」のように主語にもなりません。

答え

- 1 1 信じる 2 あれ 3 正しい 4 明らかだ  
 2 1 (順に) ア・イ・エ・ア・イ  
 2 (順に) ア・ア・ア・ウ・ア・エ・ア・イ・ア  
 3 1 見事だ 2 強い  
 4 1 おだやかな 2 軽けれ  
 おくれる・来る (順不同)

Z会 × すたペンドリル

考える楽しさを体験しよう!



くわしくは  
こちら! /

Z会の本



かっこいい小学生になろう